遊YOU米 たわら新聞 第37号

遊佐町共同開発米部会広報部編集　平成23年3月

お米生産者500人メッセージ　鈴木　喜一郎　33歳　升川班

就農して７年目、栽培作物はひとめぼれ　どまんなか、つや姫、飼料用米です。三月上旬から地域の若者が集まる作業団体で温湯消毒を行っています。お米以外に魚の養殖も行なっています。鳥海山の伏流水だけで形成される「牛渡川」その上流、源流とも言われる場所で岩魚の養殖に取り組んでいます。今まで取り組んでいたマスと違い、警戒心が非常に強くてデリケートな所があり、気の抜けない作業が続きます。稚魚から重さ70g、約20cm位に成長してから関東・関西に出荷します。甘露煮にされた魚は、関西で賞を頂いたこともあります。このイワナは主に学校給食で子供たちに食されています。遊佐の水で育ったお米も美味しいですが、魚も美味いです！曾祖父からの家業継承で当たり前のように作業をしていますが、水は一年中冷たく、生き物を扱うのは簡単な仕事ではありません。皆さんが遊佐に来た時には、捕れたてのイワナを塩焼きにしてごちそうしたいと思います　＼(^o^)

パプリカ栽培の準備も進んでます

コスト削減、的確な定植を実現するため、パプリカの苗から栽培しています。パプリカの苗には自根苗と接ぎ木苗の二種類の苗があります。砂丘地では主に自根苗を、土畑では接ぎ木苗を植えます。接ぎ木とは・・パプリカの根は土からくる病気（青枯れ病対策）に弱いので、根の部分だけ病気に強い　品種を切ってからくっつけ、病気に抵抗性を持たせます。　育苗期間は約三カ月です。接ぎ木の場合、台木（とうがらし）と呼ばれる病気に強い品種を穂木（パプリカ）より10日程度早く播きます。種まき→接ぎ木を経てある程度大きくなったら、ポットと呼ばれるものに植え替えてさらに大きく育てます。この写真は2/14播種の穂木（パプリカ）です。

遊佐の「うるい」味わって下さい♪

遊佐産のうるいは、収穫のピークを迎えています。「うるい」とはユリ科の多年草で、「オオバキボウシ」という名前の山野草です。シャキシャキとした食感と山菜特有のぬめりがあり、アクはほとんどないので生でも食べれます。おひたし・天ぷら・炒め物・サラダにも調理の仕方はお好み次第です。２年間かけて育てたうるい、ぜひ食べて下さい。

ご意見・感想お待ちしております

〒999-8301　山形県飽海郡遊佐町遊佐広表6-1
遊佐町共同開発米部会事務局（JA庄内みどり遊佐営農課内）
Tel.0234-72-3234　E-mail.yuyou@ja.midorinet.or.jp
URL.http://www.midorinet.or.jp/yuyou/